

当別町における再生可能エネルギーに関する取り組み

●災害対応型再エネ設備導入事業

※再エネ種類:太陽光・木質バイオマス
平成28年2月に当別町最大の避難所である当別町総合体育館に再エネ設備を導入。災害時に対応することを想定し、①太陽光パネル(壁面設置) 45.6kW、②リチウムイオン電池 84.4kWh、③ペレットボイラ 350,000kcal/h、④LED 照明 150W×28灯 を導入。



●とうべつ学園への木質チップボイラ導入事業

※再エネ種類:木質バイオマス
令和4年4月に開校した小中一貫校である「当別町立とうべつ学園」に、校舎に地域の森林資源を生かした木質チップボイラを導入予定。(令和4年度工事完了)木質チップボイラの導入により化石燃料の削減を図り、エネルギー起源 CO₂ の削減に寄与する。燃料となる木質チップは町内で伐採された河川支障木等を町内で加工するなどエネルギーの地産地消を図っている。また、校舎の一部には地域材を活用している。



●西当別小中学校木質チップボイラ導入事業

令和2年度に当別町立西当別小学校、西当別中学校に地域の森林資源を生かした木質チップボイラを導入。ボイラ燃料として利用されていた化石燃料の削減を図り、エネルギー起源 CO₂ の削減に寄与する。燃料となる木質チップは町内で伐採された河川支障木等を町内で加工するなどエネルギーの地産地消を図っている。



※再エネ種類:木質バイオマス

●JR ロイズタウン駅への地中熱を活用したロードヒーティング導入事業

※再エネ種類:地中熱
令和4年3月に開業したJR札沼線の「ロイズタウン駅」に、駅前広場の歩道に地域資源である地中熱を活用したロードヒーティングを導入した。(令和4年度工事完了)



※再エネ種類:地中熱

●道の駅への地中熱ヒートポンプ導入事業

※再エネ種類:地中熱
平成29年2月に「道の駅とうべつ」へ地中熱ヒートポンプを導入したもので、ボアホールを 100m×11 本導入しており、暖房能力は 59.6kW。



凡 例	
農業ゾーン	(約20%)
森林ゾーン	(約62%)
市街地ゾーン	(約2%)
国道	
道道	
企業誘致ゾーン	

※再エネ種類:木質バイオマス

●当別町木質バイオマス地域アライアンス構築事業

公共施設への設備導入を見据え、令和元年度に町とチップ製造事業者や森林組合、ガソリンスタンド事業者で構成する団体など4者による共同体「当別町木質バイオマス地域アライアンス」を設立。大型の自走式チップ製造機の導入や廃校(旧中小屋中学校)を活用したチップ製造拠点整備を行い、令和2年度から木質チップボイラを導入した2学校施設に対し、チップ供給を開始。



●ene·BUS事業

平成27年よりエネルギーの地産地消促進事業としてのene·BUS事業が開始された。本事業は、当別町下川町に設置した太陽光発電設備の売電収入をコミュニティバスの運行経費の一部に充当する



●メガソーラー発電事業

平成29年4月に当別町と太陽光発電事業の協定を締結したNX商事(株)(旧日通商事(株))がメガソーラーを建設。当別町は町有地2か所の貸し付けを行っている。

